

2002年 10月1日

エコ・リサ通信

第40号

埼玉エコ・リサイクル連絡会会報

発行人 高木 康夫

埼玉エコ・リサイクル連絡会
10周年記念事業 第2弾

11月2日(土)

午後2:30~5:00

大宮ソニックシティビル602

すすめよう!

エコ・コミュニケーション大交流会

県内12団体が談話コーナーを設置

各コーナーをまわり質問したり、自分達の活動の紹介・相互の交流やアピールができます! その他得エコ情報がいっぱい!!

フリー参加歓迎

団体・個人問わず、フリーコーナーにてチラシ配布等、参加出来ます

発表予定団体

埼玉中央ウエスト商工業協同組合

株相馬建設工業

北本市ごみ減量等推進市民会議

狭山リサイクル連絡協議会

日高のごみを考える会

ダイオキシン問題を考える市民の会

(川口市)

エコ友集まれ



ティーコーナーでは...

より多くの方と気軽に楽しく

問合せ・申込みは事務局 070-6659-6912

ホームページでもOK

<http://satte.yc1.co.jp/eco/>

第9回エコ・リサ 見学会研修ツアー

1年でごみ半減の日野市へ

8月22日(木)39人のエコ・リサ会員を乗せたバスは川越駅を9時に出発。参加者の楽しい自己紹介と活動報告を聞いているうちに、10時30分日野市リサイクルセンターに到着。

日野市役所リサイクル推進課の佐野榮一さんや楢本昭さんによる同市のごみ半減戦略について聞いたのち質問や意見交換。あまり聞きたいことが多くて、予定の12時まででは時間が足りなかった。

さて、日野市のごみの減量作戦は平成10年頃から始まった。その当時の日野市は不燃ごみ排出量もリサイクル率も多摩地区でワーストワンといわれていた。市民は市内に7200ヶ置かれた鉄製のダストボックスにごみを出していた。平成11年3月市長はダストボックス廃止の決意を表明した。5月から市民と事業者との対話集会を開始。

平成11年10月市職員の中から募ったごみ減量作戦のボランティア150人を含むごみ減量対策本部を発足させた。

平成12年10月新しい収集体制開始。その後の1年間でごみの排出を半減させた。

同市のごみ半減作戦の4大特徴

1、市長を先頭とした専門の職員と、150余名の市職員ボランティアによる市民との対話集会600回

市民との対話のために市長は駅前に立ってマイクを握り、市職員ボランティアは市

民の対話集会を細かにこなした。公団住宅では、管理人と相談して棟ごとに、ある時は階段ごとに市民対話が行われ、最終的に16万6千人の市民の3万人が対話集会に参加したと言う。この対話を通じて多くの市民が積極的にごみ問題に取り組み始めた。



2、ごみの戸別収集制度

戸別収集制度で、市民が自分の出すごみに責任を持つようになった。「分別が徹底します。資源ごみの日はぴかぴかに洗われたビンが戸口に並びますよ。資源回収品は袋に入れて出すのは駄目です。」と説明者は言う。よそ者や事業者のごみが家庭ごみに混入しなくなったという結果も生んだ。総排出量を27%も下げた事の原因の1つはこんな所にもあるらしい。

3、ごみ収集の有料化

ごみ収集の有料化は、ごみ袋の値段を高くする方法で実現した。ごみの有料化を提案した時不法投棄が増えると言う反対論があった。しかし不法投棄は増えなかった。

4、まちの分別屋さん制度

面白いのはまちの分別屋さん制度。4組の男女がそれぞれ分別とごみ出しの指導に当たる。不法投棄の監視も仕事だ。制度を作ったら制度の番人も必要。

かくして日野市のごみ半減は実現した。

「有料化は減量の大きな要因では有りません」説明役の佐野さんは「市民が目覚めた事がごみ半減の最大の原因」と言う。

-新制度の経済効果、特に戸別収集の費用についてもっと知る時間が欲しかったな-
日野市の帰りに、NPO「東京・多摩リサイクル市民連邦」が運営する多摩ニュータウン環境組合の「リサイクルセンター」の見学をして見学会を終わった。

竹村記



まさにリサイクル！生まれ変わる家具そして自転車（多摩リサイクルセンター内）

各委員会はパワフルに活動中

見学と解析そして討論、やがて提案

ごみを知らう委員会

私たちの委員会は、昨年度埼玉県下市町村の、焼却ごみの内容解析をしました。その結果、平成12年度の埼玉県の焼却ごみの量は209万トンで、その中の93万トン(44.5%)が水である事や、82万トン(39.2%)が生ごみであることが初めて分かりました。私たちは、本年5月にその解析結果を県の担当部や各市町村に連絡し、新聞社にも公開しました。

私たちは今、某研究財団の研究補助金も得て、焼却ごみの40%を占める生ごみの、収集焼却(集中処理)と家庭内で処理(分散処理)の経済効果と環境負荷の比較解析をしています。

各地の自治体を訪問して情報を集め、1ヶ月1回、各自が分担したテーマについての報告と検討を続け、来年3月の最終評価に向けて頑張っています。

9月からは、平成13年度の各市町村の焼却ごみに関する調査を、昨年同様各地のエコ・リサ会員の協力を得て行う予定です。

「エコ調査体験」終了

グリーンコンシューマー委員会

いよいよ「エコ買い物ガイドブック作成お助けマニュアル」作成へ

6・7月と買い物ガイドブック作成体験者から効果や苦勞などの聞き取り調査を行い、8月の暑い盛り、川越・さいたま・幸手・富士見・蓮田の5市でスーパー17社、ドラッグストア8社、コンビニ8社を対象に環境配慮がどの程度すすんできているのか、5人のメンバーで調査。調査項目は、ペットボトルの店頭回収を行なっているか トマト・きゅうり・塩しゃけのはだか売りの有無 台所用液体石けん・石けんシャンプーの有無という簡単な調査ですが、調査をきっかけに店長もしくは担当者とのいろいろなコミュニケーションを重視。最近、石けんシャンプーを置いてあるスーパーが増えてきており、台所用液体石けんについても販売を検討する回答をいただいたスーパーやドラッグストアもあります。調査結果の公表の許可をいただくのにかなりの時間を費やしましたが、この体験を活かし、埼玉県内すべての市町村で「エコ買い物ガイドブック」発行に向けて市民が取り組めるようマニュアルづくりを開始します。

交流集会では、合成洗剤と石けんの見分け方、どのチェーン店に行けば、石けん製品が豊富に置いてあるかなどの情報もあわせて提供できるような企画を考えています。

ライフスタイル検討委員会

8月9日に第3回目の会合を持ち、そこでは、

1. エコ・リサ交流集会の基調講演の講師について話し合い、京大教授の松下和夫氏は、御多忙でおいでいただけない、とのことで、長野の「信州・地球温暖化対策研究会」の岡本一道氏と市川市の「いちかわ地球市民会議」の高木史人氏を推薦することになった。
2. 第3分科会の講師は、足温ネットの田中優氏「努力しないで省エネする方法」、ナマケモノクラブの吉岡淳氏「スロー・イズ・ビューティフル」外断熱工法の松見氏の名が挙がった。
3. ヨハネスブルグでの「環境と開発サミット」に大江先生が参加される。との話題があった。

次回会合は吉岡淳氏が経営する「カフェ・スロー」を9月16日に訪問し、吉岡氏の活動状況や、大江先生からのヨハネスブルグのお話を伺う。

繊維製品の生産からリサイクルまでの有効な循環を考える 資源循環委員会

資源循環委員会では、繊維製品もまた大量生産～大量廃棄の流れの中で、再利用が比較的困難で多品種のプラスチック原料繊維の出現、海外生産の超安価な商品、循環を無視した不適正な回収活動のあり方など、いろいろな要因から十分な循環対応ができずに、焼却にまわされる量が多くなっている現状に着目し、昨年度から「繊維製品の有効な循環システムの構築」をテーマに研修してきました。

今年度は、繊維製品に関係する多くの企業・団体と有識者が参加し、検討が進められている『繊維製品リサイクル推進会議』の経過などにも関心を持ちながら、生産（アパレル業界）消費（市民団体）リサイクル（回収業者）の関係者および行政（地方自治体）、国（経済産業省）の関係者に集まっていただき大いに討論する予定である。

分科会に参加される多くの方からの意見・提言なども大いに歓迎したい。



本年度(社)日本青年会議所 関東地区 埼玉ブロック協議会 青少年環境特別委員会では、青少年を取り巻く環境の健全化に向けた活動(地域共育)を行っております。主な活動として、県内小中学校に「おやじの会」の必要性を伝え、その会と共に共催事業を行ってきました。子ども達には、(社)日本

青年会議所が作成したE D Oゲームを埼玉版にアレンジした「武蔵ゲーム」を行い、「思いやり」「助け合い」の大切さを伝えております。

そのE D Oゲーム(武蔵ゲーム)とは、青年会議所メンバーが江戸時代の人物に変装し、その時代を体験し、「助け合って生きる」ことへの理解、本当の豊かさとは何かを気づいてもらうことを目的としています。幾つかのアクティビティを通じ、助け合いの精神・地域主権・環境問題意識といった多様な「思いやりの心」を持った地球市民へと育成することを目的としているプログラムです。全体で8ステージから構成されており、アイスブレイク、身近な人との協力、地球環境、そしてボランティア活動や地域主権、クロージングという流れになっています。一方的なレクチャーにならないように、殆どのステージで、「ゲーム」□「分ち合い」□「振り返り」という体験型のゲーム構成になっています。

体験するアクティビティは、アイスブレイクとして「みんな鬼ごっこ」を行い、体の緊張や心の緊張をほぐします。身近なグループへの関わりとして「長屋ゲーム」を行い、全員で協力することの大切さ、更に自分も積極的にチームに貢献することの必要性を理解させる事をねらいとしています。助け合いの行動と達成感を体験する「長屋の火事」では、皆で協力し、助け合うことが大切であることを理解してもらいます。

「はにわゲーム」では、お互いの信頼、復讐、不信、ねたみ、公平さ、共存等の感情を通じて、日常生活でおこっている事を体験し、「共に勝つ」ことを理解してもらいます。

その他にも、わらじの説明を通じ、リサイクルの大切さを伝え、環境破壊は遠い国

のこと、他人の所為ではなく、自分の身の回りでも起こっている。人任せにせず、自分の身の回りで明日からでもできること（限られた資源を有効に使う。モノを大切に。ゴミを減らす等）と言ったことについて考えてもらいます。また、寺小屋の説明を通じては、自分ができること提供する事で、他人や地域と関わる気持ちを養います。最後にこのゲームの全体を総括し気づいた事を再度確認し、実行する勇気を与え終了となります。

このゲームを通して、全ての子ども達が「思いやり」「助け合い」の大切さを意識してもらえたら、きっと素晴らしい未来になると思います。また、我々大人も、素晴らしい未来を残せるように日々の生活を今一度見詰め直したいものです。

情報カモ〜ン！

第32回埼玉県生協大会 “協同のひろば 2002”に エコ・リサも参加

今！川口では…

かねて建設中の川口市のゴミ焼却炉【(株)荏原製作所製ガス化溶融炉140t×3炉】が本年12月1日から稼働開始。

現在試運転中。川口市と鳩ヶ谷市のゴミを焼却処理します。

*このガス化溶融炉は、自治体の発注としては全国初のもの。発注は1号だったが、土地の汚染問題で建設が遅くなり、稼働は酒田より遅くなった。

『ダイオキシン問題を考える市民の会』より

エコ・リサは、「燃やせるごみの中に水分はどれくらい含まれているか？」のクイズ問題をきっかけに、来場者にごみ減量化の必要性を訴えました。このまつりでは、会場内にごみ箱を置かず、「10円デポジット」による容器回収を行ないました。来場者は、飲食物購入時にもらったカードと一緒にデポジット窓口に容器を返却、この試みにより、1,000個以上の容器が分別回収されました。（報告 大前）

開催日決定!

エコ・リサイクル交流集会

2003.2.1(土) さいたま市民会館うらわ

テーマ 今こそ活かそう！市民の知恵
- 循環型社会はもうそこまで -

各分科会テーマ

- 第1 “ごみと戦う自治体の実例報告”(仮題)
- 第2 - めざせ！どこでも安心・安全が手に入る社会を - (仮題)
「買い物ガイド エコ・リサマニユアル」を大発表
- 第3 「循環型社会のライフスタイルとは」
- 第4 「繊維類の適正な循環システムの構築に向けて」

…今、私たちにできること。しなければならぬこと。…

賛助団体のご紹介 …順不同…

高橋茂仁税理士行政書士事務所	草加市
(株)相馬建設工業	川口市
五十嵐文彦	狭山市
(株)谷澤商会	富士見市
(株)高読	幸手市
吉見商事(株)	熊谷市
(株)読売旅行春日部営業所	春日部市

入会のご案内

会費(年間)
個人会員 2,000円
団体会員 3,000円
賛助会員 10,000円 (1口)

賛助団体会員大募集!!

ご支援・ご協力ありがとうございます。

☆事務所のご案内 〒330-0846 さいたま市大門町 3-205 新井ビル303号室
TEL 070-6659-6912(園田) FAX 048-642-6163(JR 大宮駅東口 徒歩8分)
ホームページ <http://satte.yc1.co.jp/eco/>

注：yc1の1は(エル)でなく(いち)です。お間違いなく! (編集担当 宮田)